

あの時代だからこそ、すごい才能 が生まれたねといわれたい

1. すべての子ども一人一人 の特性に適した学びを！

問 調布市立多摩川小学校の庄子寛之先生が述べられた言葉が新聞に紹介された。「今の子どもたちを『かわいそうなコロナ時代の子』にしたくない。あの時代だからこそ、すごい才能が生まれたねといわれたい」と。その通りである。教育に関わる人のみならず区民全員の思いでもある。GIGAスクール構想もそのために確実に進めていきたい。そこで、

①GIGAスクール構想の意義と目的(参考)を踏まえたハード、ソフト、信頼の指導体制についてどう進めていくのか。

②ICTを活用しすべての子ども一人一人の特性に適した学びをどう行っていくのか。

答 〈教育担当部長答弁・抜粋〉

①ハードは年内に一人一台環境を整える。ソフトは一斉学習、個別学習、協働学習で、より深い学びとなるツールの導入を予定している。指導体制は、ICT機器の効果的な活用方法の研修や実践事例を作成し、ICTの利活用を推進していく。②ICTの活用は、子どもたちが自分の学びを発信し、協働しながら、お互いを尊重するようになるツールとしていく。また、特別支援教育においては、個に応じた様々な活用を検討している。



2. 不登校児童・生徒のオンライン学習を出席扱いに！

問 文科省は不登校児童・生徒の出席扱いとする基準を示している。オンラインによるそのような学習を行った場合も、在籍校長の判断により正規の授業として認め出席扱いとしてはどうか。

答 〈教育担当部長答弁・抜粋〉
文科省は不登校児童・生徒の出席扱いについて、不登校児童・生徒の自立を助ける支援として有効であると判断する場合に指導要録上の出席扱いとすることを定めている。その今後、在籍校長の判断で出席扱いとできるよう検討する。



参考

GIGAスクール構想の目的と推進体制

構 想の目的は、ICT環境を整えて「一人ひとりの子どもの特性に適した学び」をすべての子どもに保証していくこと。すなわち一人も取り残さない教育の実現にある。文科省はこの構想の実現にはハード、ソフト、指導体制の三位一体で進めることが必要とした。ハードとは児童生徒一人一台の端末と通信環境の整備であり、ソフトとは、すべての子どもが使えるよう、一人一人の学習の習熟度に合わせることを始め、発達障害や学習障害などの子どもには特別な配慮をすること、またITに関する家庭環境の違いを考慮したサポートまでを含めてのものである。そして指導体制とは児童生徒と先生や指導員との間には勿論信頼関係が必要であり「信頼の指導体制」である。目的を明確にした上でGIGAスクール構想を確実に進めたい！